

郷土研通信



エゾリンドウ
アイヌ語名：ヌツテカラキナ
(アイヌ語アーカイブから)
摩周の耕地の草原に普通に見られる。
写真・文：細川音治著『阿寒・摩周の植物』

発行：てしかが郷土研究会 (Teshikaga Regional Studies Association)
北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10 (松橋方)

文章責任：松橋 秀和

近況報告

仁多獅子舞が復活

八月一九日、弟子屈神社例大祭に併せて、三八年ぶりに復活しました。弟子屈町の無形文化財の指定をされているものです。関係者の努力に敬意



情報提供

前田会員

釧路管内の郵便局(67局)において各郵便局の「風景印」が揃ったので、印影と各郵便局地域の風景や歴史などの文章を添えて冊子にして一二月ころに発行する計画とのことです。

前田さんが担当するところは、郷土研究会が過去に町の広報紙で発表した「むかしむか史」から引用させ

を表したい。

仁多獅子舞の披露が終ると鎧獅子舞の人たちから「お帰り！」の喚声が上がります。観客から大きな拍手が沸き起こっていました。

ていただくことになる、とのことです。

木村会員

知人の詩人たち四、五名が弟子屈で詩の朗誦を行いたい希望がある。場所は〇〇で九月一二日(金)14時から17時を予定している。堅苦しい催しにはならないと思うので、郷土研の皆さんで時間の取れる方は参加していただきたい、とのこと。詳細が決まり次第、郷土研のPCメールでお知らせすることにします。

詩集を対象とした「更科源藏文学賞」で弟子屈から「文学活動」を全国に発信し評価を得ていました。これが途絶えてから弟子屈では文学に関する催しが無くなって久しいです。この小さな「文学」の火を灯を大切に育て、弟子屈から再び

勉強会

「更科源藏」

ジンギスカン事件

講師 松橋秀和

事件①

昭和三三(一九五八)年に北海道を行啓された皇太子を囲んで「北海道の歴史や産業、文化を語る」催しが北海道知事公館で開かれた。座談会に出席しているのは北海道各界の重鎮たちで、ここに郷土史家、民俗学の権威ということで更科源藏がいた。

戦前に更科は思想を取り締まる「特別高等警察(通称・特高)」に検束された事がある。友人から「世が世であれば、お前は保護検束される身分ではないか」と冷やかされる。時は、日本が敗戦となり、昭和天皇が「人間宣言」行ってからまだ十数年しか経っていないころだ。

「文学」を発信していきな

事件②

ことは行啓である。道内各地を訪れる皇族に差し出す食事は、地域の一流の食材に一流の料理人が手を入られるのが相場であろう。この時は何と「北海道民のソウルフード」のジンギスカンとおにぎりだった。とても上品な食事とはいえない。しかし、これには皇太子はいたく気に召されたよう

次回の例会

摩周観光文化センターが祝日の翌日が休館日のため、
令和七年九月二五日(木)
一九〇〇
ふるさと歴史館

勉強会

演題 未定

講師 酒井盛興会員

弟子屈地域の知られていない事
がらを紹介予定。

我が家のアルバムから No.3

「むかしの美留和小学校」

むかしむかし写真館

（小林俊夫）

No. 357



この校舎は、現在の「カフェウリむう」の道路（国道391号線）向かい付近にありました。（●印）

写真は昭和十八年頃の校舎。入植者の増加より児童数も増え、白い屋根部分が増築されました。校舎の左端は校長住宅で、校舎と繋がっていました。

昭和三十一年十月、開拓学校（農林省補助金？）として、美留和第二小学校（児童は通学していない）を現在の場所（●印）に建設（この時点では美留和の小学校は二校あった）。翌年の昭和三十三年三月には第二小学校に接続して新校舎が移転新築され、五月に二校が統合されて美留和小学校となりました。今の校舎は二代目となります。



地図：国土地理院(1:25,000)縮尺

※「本町に関する古写真」の無償提供をお願いします。

（コピーして返却致しません）てしかが郷土研究会

②縦看板には「から松試育苗圃」とあります。所謂「学校林造成のため植樹作業を全校で取り組んでいました。」



①昭和三十一年頃の授業風景。3年生と6年生との複式授業も行なわれていました。



①～④私が美留和小学校一年生1956（昭和31）年ころの写真です（全校児童数162名）

④グラウンドの奥には二つ池があり、その回りの草取り作業も全校で行なっていました。



③週に一回全校で、グラウンドの草刈りや整地作業を行なっていました。



*参考資料～美留和小学校開校百周年記念誌「石楠花」（2012[平成24]年9月30日）・「弟子屈町史」第二巻（1981[昭和56]年3月31日）
*情報提供～鈴木幸栄氏・渡辺綿士氏・八幡豊行氏